

研究課題名	固形物による食物誘発性胃腸症（FPIES）の機序解明
フリガナ	タカサト ヨシヒロ
代表者名	高里 良宏
所属機関（機関名） （役職名）	あいち小児保健医療総合センター アレルギー科 医長
本助成金による発表 論文，学会発表	現時点で決定ではありませんが 2023 年度日本アレルギー学会または日本小児アレルギー学会で 発表予定です。

研究結果要約

目的：近年増加している固形物による消化管アレルギー（固形物 FPIES）の機序は不明な点が多く、有用な補助診断法も確立していない。本研究は固形物 FPIES 患者に対して皮膚プリックテスト（SPT），特異的 IgE 評価，好塩基球活性化試験（BAT），皮膚パッチテスト（PP），リンパ球刺激試験（LST）に同一抗原を用いて実施，解析することで検査の有用性及び限界を明らかにすることとした。

結果：全体として 23 件（卵黄 13 件〔陽性 9 件，陰性 4 件〕，小麦 7 件〔陽性 2 件，陰性 4 件〕，大豆 3 件〔陽性 1 件，陰性 2 件〕）の解析を行った。全体を対象とすると特異的抗体価（UA/mL）の中央値（四分位）は陽性群（P 群）：陰性群（n 群）で 0.1（0.1-0.19）：0.1（0.1-0.29）であった。SPT 陽性者は p 群 8 名中 0 名，n 群 10 名中で 1 名/10 名，BAT 陽性者は p 群 10 名中 1 名，n 群 10 名中 2 名であった。PP 陽性者は p 群 9 名中 1 名，n 群 11 名中 1 名であった。LST 陽性者は p 群 12 名中 10 名，n 群 9 名中 8 名であった。今回実施した 5 つの検査はすべてに両群での有意差はなく，抗原別に解析を行った場合にも傾向に変化はなかった。

考察，結論：塩可溶性抗原を用いた今回の解析では診断補助に有用な検査は見られなかった。症例数が不足している抗原もあることから，更なる症例集積が必要である。また塩不溶性抗原の抽出及び臨床応用も課題として挙げられる。